

ばれっと

2010
6月
No.130

P2~3 すぽっとらいと

『仙台生ごみリサイクルネットワーク』

**生ごみをリサイクルして堆肥化！！
市民のエコライフをお助けします**



地域住民が主体となって、公園の落ち葉を、堆肥（たいひ）化する取り組みが行われています。公園のごみとして捨てられていた落ち葉も、リサイクルして有効活用できるのです。そのノウハウを教えるのは、「仙台生ごみリサイクルネットワーク（仙臺生ごみネット）」の皆さんです。

<目次>

-
- P4… サポちゃんで行く骨殖口施設見学！ のびすく仙台の巻
 - … サポ本を読もう！ 『うつ病治療 常識が変わる』
 - P5… 突撃取材！ 市民協働推進課 お知らせ
 - P6… サポセンカレンダー

すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

生ごみをリサイクルして堆肥化！！ 市民のエコライフをお助けします

仙台生ごみリサイクルネットワーク

今年の2月に設立10周年を迎え、日々、生ごみの堆肥化および減量の為に活躍されている、「仙台生ごみリサイクルネットワーク」。今回は、会長の山内文男さんにお話を伺いました。



▲会長の山内文男さん

●家庭ごみの4割を占める 生ごみのリサイクルのために

家庭から出るごみの約4割が“生ごみ”だといわれています。そして、ごみの中で最も腐りやすく取り扱いが難しいのが生ごみです。

仙台生ごみリサイクルネットワーク（以下、仙台生ごみネット）は、この生ごみのリサイクルを推進し、ごみの減量化を図ることを目的とし、平成11年4月に設立されました。

設立のきっかけとなったのは、高砂市民センターで開催された「生ごみのゆくえと環境」という講座でした。この講座に講師として招かれていたのが、現在、仙台生ごみネットの会長を務めている山内さんでした。山内さんは、大学でバイオサイエンスという専門分野の研究に取り組んでいましたので、生ごみが土にかえる仕組みについて講演することになったのです。

当時の仙台市では、市民の間で、コンポスター（屋外型堆肥化容器）や密閉バケツなどによる生ごみ処理が行われていましたが、臭いや費用、技術的な問題などから、あまり普及していませんでした。

そこで、講座終了後に、受講生と山内さんら4人が、仙台に生ごみリサイクルの団体を作ろうと、発起人として立ち上がったのです。

●講座や研修会で生ごみの リサイクル方法を市民へ伝授

生ごみをリサイクルする方法として、ボカシ（有機肥料を微生物によって発酵させて作る肥料）の密閉バケツによる堆肥づくりの方法があります。しかしこの方法は、ある程度の技術が必要です。そこで実践者の多い仙台生ごみネットに、その技術を教えて欲しいと、さまざまなグループや町内会から研修会の依頼があったそうです。その研修会の回数は、発足して間もない1年半

の間に、40回にもものぼりました。

このような活動が認められ、仙台生ごみネットに、市のリサイクル推進課から講師依頼の話が舞い込みました。仙台市が主催する生ごみリサイクル実践講座で、生ごみの堆肥化の手法について、講師を務めて欲しいとの依頼でした。平成13年から始まったこの講座は、市の各区で毎年4～8回開催され、今も続いています。

●ダンボールで堆肥をつくる

家庭で普及し始めた密閉バケツ方式は、臭いがすることと、比較的費用がかさむことが問題でした。そのため、仙台生ごみネットでは、これに替わるものとして、臭いが少なく、安い経費ででき家庭でも行いやすいダンボール方式を取り入れました。

この方式は、どこにでもあるダンボールの箱に、ホームセンターなどで簡単に購入できる腐葉土とモミガラくん炭、コイン精米機や米穀店などで手に入るヌカを用いるというものです。

市も前述のリサイクル実践講座に加え、平成17年から町内会などへの出前講座を開催し、ダンボール方式の普及に取り組み始めました。受講生にはダンボール方式で必要になる腐葉土やヌカを



▲ダンボール方式の出前講座の様子

無料で配布し、市民がリサイクルに取り組みやすい工夫もしています。

この出前講座も、仙台市からの依頼をうけて、仙台生ごみネットの会員が講師を務めています。

●行政と一緒に、リサイクル推進

平成20年10月から始まった市の家庭ごみの有料化は、市民のリサイクル意識をさらに高めました。実践講座の参加者は、なんと3倍近くに達したそうです。山内さんは当時を振り返って「これらの講座を担当する仙台生ごみネットの会員の労力も大変でしたが、みんなの努力と協力でやり遂げる事が出来ました」とお話ししてくださいました。

仙台生ごみネットは、行政と連携しながら、10年以上にわたり、生ごみのリサイクルを推進してきました。これまで取り組んできた、さまざまな処理技術は、要望のある限り引き続き教えていくことが第一と考えているそうです。

最近では定年退職した方や主婦の方々の間で、家庭菜園を持つ方が増え、その堆肥づくりに生ごみリサイクルを始める人も多くなってきています。そのような方々のために、ベランダ農業、プランター農業も視野に入れて活動していきたいと思っているそうです。

さらに、新しい取り組みも始まっています。平成18年秋から市と共同で始めたのが、落ち葉の堆肥化実験です。公園でごみとなる落ち葉を堆肥化させ、腐葉土を作り、地域内の花壇や菜園づくりに役立てようとするものです。これは、実験段階を経て、地域住民主体のプロジェクトに発展しています。地域ぐるみでのごみのリサイクルが始まろうとしているのです。

これからも、仙台生ごみネットは、講座を通じてリサイクルのノウハウを伝え続けるとともに、その必要性も説きながら、ごみのリサイクル推進に取り組んでいきます。

★★ 取材を終えて

仙台生ごみネットの活動は、その生ごみをリサイクルすることで、ごみの削減と無農薬の堆肥づくりという一石二鳥のエコ運動につながっています。さらに市民に普及していけば、さまざまな環境問題の解決にもつながるのではないのでしょうか。今後の活躍に期待します。

(担当：伊藤 香)

<団体情報>

仙台生ごみリサイクルネットワーク

100万人のゴミ減量運動として、日々、生ごみのリサイクルの方法や、生ごみが自然にかえる仕組みについて、講演や実演を開き、市民に生ごみのリサイクル運動を啓発しています。

■ 連絡先

〒980-0845
 仙台市青葉区荒巻字青葉468
 (株) 東北バイオサイエンス研究所内
 会長 山内 文男
 TEL: 022-221-6484
 FAX: 022-221-6485

〒982-0811
 仙台市太白区ひより台1-10
 事務局 徳田 実
 TEL: 022-245-8840
 FAX: 022-244-2058

<ミニ情報>

生ごみリサイクルに関する補助金交付制度があります

電気式処理機は平成16年から仙台市の補助が受けられるようになりました。ゴミ有料化が始まった平成20年には、仙台市も予算を組み、それまでの数倍の台数が購入されました。「仙台市主催で行われる実践講座や出前講座を聞いてから、取り組むのが効果的です」と山内さんからアドバイスをいただきました。

■ 募集期間

平成22年4月1日～平成23年1月20日

■ 補助の内容

- (1) 生ごみたい肥化容器購入費補助金
 - ・ 補助金額 1基につき2,000円(1世帯あたり2基まで)
 - ・ 補助基数 800基(先着順)
 - (2) 家庭用電気式生ごみ処理機購入費補助金
 - ・ 補助金額 購入費用の3/5(30,000円限度 1世帯あたり1台)
 - ・ 補助台数 1,000台(先着順)
- ※いずれも購入前の申請が必要です。

■ 申請書送付先

〒980-0811
 仙台市青葉区一番町4-7-17 小田急仙台ビル10階
 仙台市環境局リサイクル推進課 まで
 (TEL: 022-214-8230)

サポちゃんで行く **骨** プロ

『のびすく仙台』の巻

仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

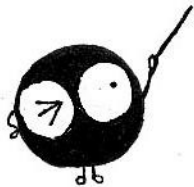
市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このコーナーでは、各施設で「骨プロ」がどのように活用されているかをご紹介します。

仙台市子育てふれあい
プラザ のびすく仙台
仙台市青葉区中央二丁目10-24ガス局ショールーム3F
Tel:022-726-6181
Fax:022-214-5071

のびすく仙台は、0～3歳ぐらゐの乳幼児とその家族を対象に、ひろばと一時預かり事業を中心として、子育て家族の支援をしている公共施設です。また、子育て情報も提供しています。今回は、のびすく仙台のスタッフ三浦三恵子さんにお話を伺いました。

●子育てママに活躍の場を

今、のびすく仙台で人気なのが昨年7月から始まった「キラリンママプロジェクト」です。子育てママが特技を活かして教室を開き、講師役まで務めるといふものです。これまでにアロマ教室や布ナプキン教室などが開催されました。この取り組みは、「のびすくを子どもたちの遊び場としてだけでなく、子育てママたちの活躍の場としても使って欲しい」と始まった



▲「のびすく情報コーナー」にある骨プロラック。

ものです。講師も生徒も現役の子育てママさんたち。子連れで参加できるので好評です。

●骨プロつながり

仙台の子育て情報が集まる「のびすく情報コーナー」の一角に骨プロラックを発見しました！「骨プロができてから、子育て以外の情報も利用者の方に提供できるようになりました。利用者の方がより詳しい情報を必要とする時には、近くにある骨プロ関連施設のサポセンやエル・パーク仙台を案内しています」と三浦さん。チラシをきっかけにした骨プロ関連施設の連携が生まれているのですね。

●子育てをまるごと応援

のびすく仙台には経験豊富なスタッフや、子育て中の先輩ママがいます。「一人で育てるより、みんなで育てたほうが楽しい。誰でも最初は子育て初心者。できないのは当たり前。のびすくには子育てを応援してくれる人がたくさんいますよ。まずは気軽に来てほしいですね」と、三浦さんからとても心強い言葉をいただきました。子育てに関わる方には、是非一度訪れていただきたい場所です。

(担当：吉田 祐也)

今月のサポ本

『うつ病治療 常識が変わる』

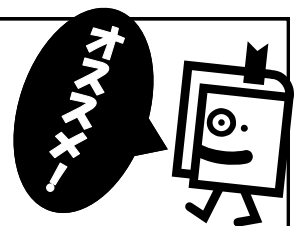
うつ病は、誰でもかかる可能性がある病気で、患者は年々増えています。うつ病を苦しむに自殺する方も出ており、社会の課題と言えます。うつに苦しんでいる人は、薬や医師の対応への疑問などには気づきにくい、仮に気づいても対応できない可能性が高いと思います。そのため周囲の人の関わりや手助けが必要です。

本書には、うつ病治療の最前線の取材がまとめられています。

問題は病院・医師によつての対応や薬の処方の違いです。これは医師のレベル・モラルの差に起因するもので、それにより回復のしかたに差が出るの

ですから、見過ごせません。しかし、医師たちも現状を改善するため、地域のかかりつけ医を対象にした専門医による講習会を開き、早期発見・治療をすすめる取り組みを始めています。

本書の中で紹介されている「医師選別の5ヶ条」や、現在うつと闘っている方とご家族の体験談は、とても参考になります。どこの医療機関でどんな治療を受けたのか、情報を収集し回復に役立てて欲しいと活動している方のことも書かれています。うつ病を身近に感じている方はもちろん、そうでない方にも是非読んでいただきたい一冊です。(担当：菅野 祥子)



著者：NHK取材班
発行：宝島社
定価：1,200円(税込)

■この本は「C福祉・医療」にあります。

突撃取材！ 仙台市市民協働推進課



この春、サポセンの担当部署の名前が「市民活動支援室」から「市民協働推進課」へと変わりました。今後、どのような取り組みをしていくのか、市民協働推進課の山崎良美主幹にお話を伺いました。

Q. どのような点が変わったのですか。

A. 市は「市民協働元年宣言」をした1999年、「市民協働のまちづくり」を目標に掲げ、その拠点としてサポセンを設置しました。これまでサポセンを中心に市民公益活動の促進に取り組んできましたが、10年が経過し、今、仙台市は、今後いっそう市民協働を原動力としたまちづくりを市民のみなさまと一緒にすすめていきたいと考えています。

Q. 具体的な取り組みを教えてください。

A. 市民協働を原動力とするまちづくりを推進するためのしくみを充実していくのが、大きな仕事です。

まずは、市役所全体で市民協働に取り組むことが必要で、研修などによる職員の意識醸成や市民協働を推進する体制づくりを強化していきたいと考えています。さらに、市民のみなさまと知恵を出し合い、汗をかいて、まちづくりを行う市民参画のしくみが重要です。みなさまと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

また、市民公益活動の促進については、サポセンが中心となって、市民活動団体の支援を行うほか、今年度、新しく進めていく事業があります。

一つめは、NPO等へのインターンシップ推進事業で、これは市民公益活動促進委員会でも議論されてきました。学生を中心とした若者の支援

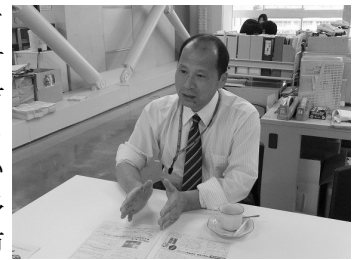
で、インターンシップを通じて、市民公益活動への理解や次世代への教育を目的としています。

二つめは、コミュニティビジネス促進事業です。地域資源の掘り起こしや地域課題の解決に取り組むことにより、NPOの運営強化や活躍の場を拓げる支援を行います。

三つめは、アクティブなシニア世代を応援するというものです。10月29日に高齢社会フォーラムを開催します。このフォーラムを機会に、仙台のまちが元気になるように、シニア世代をはじめ市民活動団体等が、さらに活発に活動できるように支援していきたいと考えています。

Q. 今後のサポセンに期待していることは？

A. サポセンは「市民協働のまちづくり拠点」です。もっと多くの方々にサポセンを利用させていただきたいと思えます。市民活動シアターをうまく活用すれば、いろいろな方がサポセンに集まってくれるのではないのでしょうか。より多くの方で、市民協働のまちづくりを実現していければいいですね。



▲取材に対応してくださる山崎さん

山崎さん、ありがとうございました。

市民活動も協働も、みんなが「住みたい！」と思うまちづくりのためのもの。これからもサポセンは、みなさんの想いを形にするお手伝いをしていきます。
(担当：菅野 祥子)

お知らせ ●○●

事務用ブースの使用団体を募集します！

NPOやボランティア団体など、自発的で公益的な活動を行う団体で、事務所を必要としている方々に「事務用ブース」をお貸しします。



- 使用期間 平成22年9月1日～平成23年8月31日
- 対象 継続的に市民公益活動を行い、市内に専用の事務所を持たない団体(企業を除く)
- 募集数 4ブース(予定)
- 設備等 机、いす、ロッカー 面積約4㎡
- 使用料 月額 7,000円
- 使用団体は、提出書類及び7月中旬開催予定の選考会での説明内容等をもとに選考で決定します。
- 申込受付期間 6月11日(金)～25日(金)
9:00～21:00(日曜日は17:00まで)

■問い合わせ・申し込み先

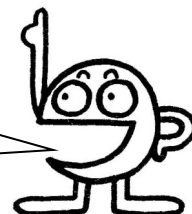
仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042

6月～サポセンカレンダー ●○● <申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
6月24日(木) 14:30～16:00	ONPOいろは塾 「地域の役に立つ活動を始めたい!」「新聞やテレビでよく耳にするNPOって何だろう?」そんな皆さんにオススメの講座です。NPOの基礎について、90分でわかりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)



平成21年度の平均受講率105%を超える、**超人気講座**です!!
お申し込み開始は6月6日です。
お早めのお申し込みをオススメします。



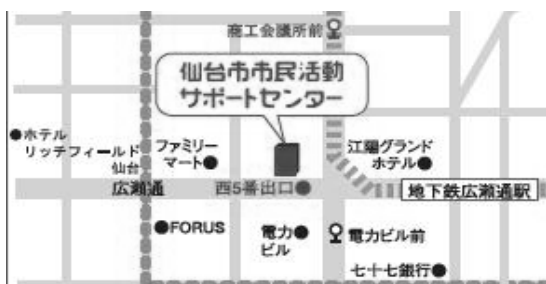
■ 仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ < 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983 仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
6月19日(土) 13:30～16:30	◆ 思いを形にする講座(先着20人) 地域社会に貢献する活動や起業の立ち上げの心構えや具体的なノウハウを学びます。	研修室5 (4F)	1,000円 (事前申込必要)
7月10日(土) 10:00～17:00	◆ 専門相談(先着5人/一組50分程度) 仙台の市民スポーツを支えるボランティアに参加してみませんか?	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
8月7日(土) 10:00～17:00	◆ 専門相談(先着5人/一組50分程度) 英語を勉強しながら、そのスキルを活かせる活動に参加してみませんか?	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄]広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時～午後10時

○日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

5/26 6/30

■ **編集後記** ◆今月に入って一気に暖かくなりましたね。サポセンのマングローブもさぞ喜んでいただろうと思いきや、新しい葉っぱが出てきません。猿蟹合戦の蟹の気分です…。(菅野)
◆家庭の生ごみや公園の落ち葉は、リサイクルされ堆肥となり、なかなかいい仕事をしていましたね。世の中上手に回していくと、無駄なものなどないということでしょうね。(葛西)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年6月1日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:菅野祥子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2010年4月1日～2015年3月31日]